

Q&A

1. 安田 啓 「国際標準化戦略の新しい流れ」

1Q1 「TBT 協定による標準が充分機能していない」というお話があったがどういう意味か？TBT 協定により、国内標準が国際標準と整合するという目的は達成されているように思うが。

1A1 WTO/TBT 協定で狙っていたのは、世界的に安定した1つの標準による貿易障壁の除去という理想だったと思う。それが国際規格の「マルチスタンダード化」や、民間基準（プライベートスタンダード）の増加なども影響して必ずしも実現できていない。また、認証という面では、国内認証が実質的に非関税障壁になっている。

1C1 グローバル・レレバンスやマルチスタンダードについては、大学の講義でも教えている。特許において排除するばかりでなくオープン化やパテントプールの動きがあるが、標準の場合には逆に実質上デジュールを排除するようなものができているようだ。ビジネスの現場では、これらすべてに柔軟に対応しているように見える。

1Q2 日本の認証機関の統合という選択肢を挙げられたが、外資系の認証機関についてはむしろ使いでのある場合も見受けられる。こだわる必要はないのではないか。

1A2 外資系の場合は、認証のための技術開示において、競合他社の技術者が担当する可能性もあるので、認証に関係して技術流出の懸念も指摘されている。また、規模を見たときに日本の認証機関は世界的に見ると余りにも小さい。少なくとも同じ省庁傘下では統合が検討されてもよいのではと考える。